

## 「重慶大爆撃の被害者と連帯する会」ご賛同のお願い

日本と中国は、一衣帯水の隣国であり、両国人民の友好往来と両国の平和友好関係は、2000年の永い歴史を有しています。

ところが、近代に入ると日本はアジアに覇をとなえて中国を侵略し、両国の平和友好関係を破壊しました。

1931年「九・一八柳条湖事件」による東北侵略を経て、1937年「七・七盧溝橋事件」以降、集団及び個別虐殺、強姦、略奪、放火、破壊等正に人類史上空前の悪逆非道な南京大虐殺をはじめとして、日本侵略軍は中国全土で「殺し尽くし、奪い尽くし、焼き尽くす」三光作戦を繰り広げ、毒ガス戦、細菌戦等の戦争犯罪の限りを尽くし、筆舌に尽くし難い地獄の苦しみに中国人民を陥れました。

当時、日本は中国を差別し、侮り、蔑視していたため戦争になれば、1年か2年で中国を屈服させることができると考え、「日本に楯つく生意気な中国を断固こらしめる」として、全面戦争を挑みました。しかし、当初の予想とは異なって、中国の抵抗は強固で、容易に屈服させることのできるような情勢ではありませんでした。焦った日本は、中国が日本に抗戦し続けることのできるのも、米・英両国が背後で中国を援助しているためだとみなし、中国で戦争に勝つためには、米・英両国の援助を断ち切る必要があると考え、東南アジアにおいて米・英両国との対立を深め、侵略を始め、アジア太平洋戦争へと突き進んでいきました。

中国人民は、言語を絶する苦難と屈辱に甘んじず不撓不屈に日本の侵略と闘い、3500万人の死傷者、6000億ドルの物的損害という膨大な犠牲を乗り越えて、1945年、遂に抗日戦争に勝利し、1949年、中華人民共和国を建国しました。

本年は、かつて第二次世界大戦中、ファシズムの側に身を置いていた日本の侵略戦争、植民地支配が、中国人民をはじめとするアジア人民の抗日民族解放の戦いと全世界人民の反ファシズムの戦いによって打ち破られ敗北した60周年です。すなわち「敗戦60周年」です。

アジアと世界では、「抗日戦争勝利」60周年、「民族解放」60周年、「反ファシズム戦争勝利」60周年の記念年と位置づけられ、様々な記念活動が行われています。又若者を中心に「抗日行動」が巻き起こりました。

私たちは、敗戦60周年にあたり、厳粛な侵略の歴史事実を承認した上で深く反省、謝罪し、二度と過った歴史を繰り返してはならないという決意を新たにしています。日本が戦争国家となり、侵略の道を進むことを阻止しなければならないと固く決意しています。

さて、私たちは、このたび「重慶大爆撃の被害者と連帯する会」を発足させる運びとなりました。

大爆撃、空爆と聞けば、日本人なら敗戦直前のアメリカ軍による主要都市への大空襲を思い起こします。米軍機の軍事目標と一般住民の生活区域との差別なく全都市を破壊し、焼き払う無差別爆撃の反人道性は、日本人にとっては忘れることのできない悲痛な歴史です。

ところが、こうした反人道的な無差別爆撃は、実は米軍より先に日本軍が中国の重慶やそ

他の都市に対して行ってきたのです。

現在、広島市と友好都市の関係を保っている重慶市は、1937年11月より中国国民政府の戦時首都とされ、特に日本軍が武漢を占領した1938年10月以降は、70万人の人口を持つ政治、経済、軍事、文化の中心となっていました。この重慶に対する日本軍の無差別爆撃は、史上空前のもので、1937年のドイツ・イタリア軍によるスペインのゲルニカ空襲と比べても比較にならないほど苛烈を極めるものでした。

重慶、成都などに対する爆撃は、1937年下半年より1943年上半期まで、6年間の長きにわたり、とりわけ1939年から1941年までの3年間は重慶に集中し、最も野蛮かつ残酷なものでした。

爆撃が落ちたところは、烈しく火が燃えさかり煙は天をつき、あたり一面は、たちまち火の海になって、人々は叫び、赤ん坊は泣きわめきました。家屋は崩れ、瓦礫の中には死体ごろがり、樹の枝や電線には死人の手足がひっかかっている見るに耐えない惨状を呈し、血にまみれた焦土と化しました。

1941年6月5日には、爆撃によって、較場口防空大トンネルに閉じ込められた数千人～1万人の人々が窒息死、圧死した「較場口防空大トンネル窒息事件」が引き起こされました。

最近の資料では、重慶大爆撃による死傷者は61300人、内死者は23600人、負傷者は37700人とされています。

私たちは、2002年以来、重慶市より重慶大爆撃の被害者、研究者、芸術家、又重慶市人民政府及び文史研究館の代表団等の招請、重慶市への「反侵略と友好を誓う中国訪問団」の派遣等相互訪問、相互交流を進めてきました。

重慶では2004年4月7日、「重慶大爆撃被害者民間対日賠償請求原告団」が結成され、現在までに、461名の被害者が登録しています。

又重慶市の各界の良心的な人々や学者、研究者、芸術家、弁護士、ジャーナリスト、多くの市民、学生が支援しています。

原告団長の高原先生は、次のように訴えています。「原告団は自分たちの標語として『真相』『正義』『賠償』『平和』を掲げている。第一の目的は、日本軍国主義が行った重慶大爆撃の事実、加害と被害の全ての真相を明らかにして、歴史に残すことである。我々は、爆撃の加害者を許すことがあっても、爆撃の歴史を忘れることはできない。忘却は歴史への犯罪である。日本の爆撃で重慶の一般庶民が残虐に殺された事実を永遠に忘れないことこそが、重慶大爆撃を繰り返させない道である。」

「第二の目的は、日本政府に重慶爆撃が違法な犯罪行為であることを認めさせ、重慶爆撃の被害者に対する謝罪と賠償を実行させ、これを通して被害者に正義を実現させることである。」

「第三の目的は、歴史を鑑にして、中日両国の人民は子々孫々友好的につきあい、アジアと世界の平和を実現することである。良心的で目覚めた日本人民は、第二次世界大戦で犯した過ちを深く反省し、二度と隣国を侵略することなく、中国人民と友好的につきあっていく

ことを確信している。平和こそは我が原告団の最終にして最大の目的であり願いである。」

私たちは、中国人民が蒙った筆舌に尽し難い苦痛や恐怖、悲しみ、怒りを、被害者の訴えを、厳粛に、真剣に受け止め、日本人の一人一人が自らの問題として捉え考えなければならぬと思っています。

更に、国民と民族を滅亡の危機から救うために不撓不屈に日本の侵略とたたかい、大きな犠牲を乗り越えて抗日戦争に勝利し、新中国を建設した、中国人民の偉大な精神とその営みに深く学ばなければならないと思っています。

重慶大爆撃の被害者に学び、そのたたかいに連帯する「重慶大爆撃の被害者と連帯する会」の趣旨を御理解戴き、御賛同を賜わりますよう謹んでお願い申し上げます。

この活動を通して、私たちは、日中両国の真の平和友好関係の確立、重慶市民と日本人民との友好、延いては日中両国人民の子々孫々、世々代々にわたる友誼促進の為に奮闘努力する所存であります。

何卒御支援、御協力を賜わりますよう、又御指導、御鞭撻を賜わりますよう謹んでお願い申し上げます。

### 「重慶大爆撃の被害者と連帯する会」

代 表 栗原君子（元参議院議員）

事務局 由木栄司（広島県日本中国友好協会青年委員会委員長）

#### 【連絡先】

- ・ 広島県広島市中区平野町 8-15 カレントコスモ 2 階 栗原君子  
Tel(082)504-8817 FAX(082)504-8818
- ・ 広島県呉市山手1-14-3 由木栄司  
Tel090-8363-8103 FAX(0823)26-5711

**重慶大爆撃の被害者と連帯する会に賛同します。**

個 人 \_\_\_\_\_

所属団体・役職、肩書 \_\_\_\_\_

団 体 \_\_\_\_\_

住所・連絡先 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

FAX 番号 \_\_\_\_\_